

北海道教育委員会「S-TEAM 教育推進事業」 令和4年度（2022年度）授業研究セミナー

道東 地理歴史・公民 実施報告



令和4年12月1日（木）に、「教科・科目における探究的な学び（主体的・対話的で深い学びの実現）」をテーマとして、北海道北見北斗高等学校において「道東ブロック 地理歴史・公民の授業研究セミナー」を開催し、道東ブロックの各管内を中心に全道から30名（会場14名、オンライン16名）の先生方が参加しました。本セミナーは、東京学芸大学次世代教育研究推進機構の「高校探究プロジェクト」と連携しており、助言者として、東京学芸大学の日高 智彦 准教授をお迎えしました。本セミナーの実施内容等を紹介しますので、授業改善の参考として御活用願います。

実 施 状 況

【学習指導案検討会】

新科目「歴史総合」における研究授業の実施に向け、道立高校教諭4名、道教委指導主事3名、日高准教授1名による「授業研究検討チーム」を編成しました。9月から計4回、オンラインによる学習指導案の検討を行い、公開する研究授業の単元は、学習指導要領における大項目Cの中項目(3)「経済危機と第二次世界大戦」とし、単元の目標の達成のため、探究的な学びの実現へ向けた「問い」の設定や資料の選定を行いました。授業者は「既存の認識への揺さぶり」と「歴史的事象を単なる過去の出来事とせず、現代の諸課題と関連させながら考察する」ことをねらいとしており、その実現に向けチーム員で活用可能な資料を探するなど、単元計画及び学習指導案の改善を図りました。



単元指導計画・学習指導案



授業資料

【研究授業】北海道北見北斗高等学校 馬場 脩平 教諭



【グループワークの様子】



ワークシート

授業では、下記の「本時の問い」を生徒に提示し、歴史的な見方・考え方を働かせることができるよう、複数の諸資料を用意しました。生徒は4人程度のグループに分かれてジグソー法で諸資料を読み取り、諸資料から読み取った内容をグループ内や全体で共有し、個人で思考した内容に他者の視点を取り入れ、歴史的な理解を深めました。

《本時の問い》

- ① なぜ、BC級戦争犯罪が起こり、戦犯として裁かれる人が生まれたのだろうか？
- ② 戦争犯罪や戦犯を再び生み出さないためには、どのような仕組みや考え方が必要なのだろうか？

【研究協議】「地理歴史科の授業における探究的な学びの在り方について」

参加者は、授業中の生徒の学びの様子を記入した「授業記録シート」を踏まえ、各グループに分かれ、「本時のねらい（目標）を達成するための『本時の問い』や資料は適切だったか」、「探究的な学びを実現するために、どのような学習活動が必要か」、「本時の学習活動をどう評価するのか」を柱に協議しました。協議の後には、参加者から「複数の資料を使用したり、シグソー法を用いたりすることで、多面的・多角的に『本時の問い』を考えることができていた」などの感想が聞かれました。授業者からは「生徒の中には資料の読み取りに時間がかかった生徒もいたが、『本時の問い』を他人事ではなく、自分事として考えていた」という振り返りがありました。



【研究協議全体の様子】



【Zoomによる参加の様子】



【研究協議の様子】

【助言】東京学芸大学教育学部 日高 智彦 准教授

最後のまとめとして、日高准教授からは、「授業研究セミナーによる授業改善の取組の推進は、よい授業の発信ではなく、よりよい授業の作り方を発信すること」との助言とともに、「単元計画を作成する重要性」、「諸資料から情報を引き出す技能（「問い」の表現の方法）」、「生徒の活動を見取る評価基準の作成」など、様々な視点からご説明をいただきました。



【日高准教授による助言の様子】

セミナー参加者の声

【参加者の声】

- 探究的な学びに至るプロセスについて、授業改善のヒントをいただきました。
- 勤務校とは違う生徒の実態や授業スタイル、教材づくりなど勉強になりました。今後もこのような機会がありましたら参加させていただきます。
- 教科書や資料集等に掲載されていた史資料を工夫し、探究的な学びを行う授業を行ってみたいと思います。
- 「問い」の立て方や史資料の読み取りを通して、自分事として過去と現在がつながる授業づくりを意識して取り組みたいと考えています。

【アンケートの結果（一部）】

- 1 今回の研究授業・研究協議において、教科における「探究的な学び」又は「主体的・対話的で深い学びの充実」に関する理解は深まりましたか。
 - ・おおいに深まった 40.0%
 - ・深まった 60.0%
- 2 今回の授業研究セミナーは、あなたの今後の授業改善に役立ちますか。
 - ・おおいに役立つ 46.7%
 - ・役立つ 53.3%